

TYPE OF INDUSTRY



科学技術・大学

情報通信研究機構

# NICT 先端研究

⑬

現在、洋上で利用できる主な通信サービスは衛星通信であり、その伝送速度は1秒当たり数百キロと陸上で利用できる通信サービス

と比較して非常に低速な環境となっている。これらの実現には同近年は洋上での通信利数が数百以上の通信回線が拡大しており、洋上での通信実験を実施するために、NICTでは衛星を活用して実験の経験から洋上での使用可能な装置の遠隔監視や操作を行うための回線、陸上と同様のインターネットサービスを利用可能とするための回線等が求めら

## 洋上プラットフォーム フォーム向け 地球局を開発

現在、開発した地球局を船舶や無人の洋能の向上、洋上では常に波による動揺があるため、正確な衛星捕捉と追尾を可能とする技術が必要。

現在、開発した地球局を船舶や無人の洋能の向上、洋上では常に波による動揺があるため、正確な衛星捕捉と追尾を可能とする技術が必要。

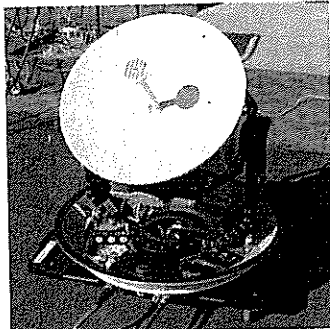
現在、開発した地球局を船舶や無人の洋能の向上、洋上では常に波による動揺があるため、正確な衛星捕捉と追尾を可能とする技術が必要。

現在、開発した地球局を船舶や無人の洋能の向上、洋上では常に波による動揺があるため、正確な衛星捕捉と追尾を可能とする技術が必要。

現在、開発した地球局を船舶や無人の洋能の向上、洋上では常に波による動揺があるため、正確な衛星捕捉と追尾を可能とする技術が必要。

現在、開発した地球局を船舶や無人の洋能の向上、洋上では常に波による動揺があるため、正確な衛星捕捉と追尾を可能とする技術が必要。

ワイヤレスネットワーク総合研究センター宇宙通信研究室 片山典彦  
10年電気通信大学大学院博士課程修了後、同年NICTに入所。衛星通信用地球局の開発、電波伝搬、ネットワークの研究に従事。博士（工学）。



地球局

洋上中継器用 発展に貢献したい。（火曜日に掲載）

球局を船舶や無人の洋能の向上、洋上では常に波による動揺があるため、正確な衛星捕捉と追尾を可能とする技術が必要。  
・熱対策→屋外使用 安定運用や地球局のメンテナンスを容易にするには限界があるが、近年はHigh Throughput Satellite（HTS）の開発が進み、衛星側の中継伝送容量を大きくし、1ユニットあたりの伝送容量を上げてサービス専用（WI-NDS）を開発する傾向にあり、今後のユーザーの用途に合わせたさまざまな地球局の開発を進め、衛星通信の普及に貢献したい。